

# 高校生のための、社会スタディ。 第15回 日経エデュケーションチャレンジ in 柏の葉

2015年8月4日(火) 柏の葉カンファレンスセンター(千葉県柏市)

主催/日本経済新聞社 後援/文部科学省・経済産業省・経済同友会・千葉県教育委員会 協力/三井不動産



## B コース 第1時限 Sky

安心・安全な社会を実現するために  
必要なソフトウェアをつくる仕事



パソコンやスマートフォン(スマホ)以外にも、車、現金自動預け払い機(ATM)やコンビニに設置されているデジタル複合機など、暮らしを便利にするあらゆるものにソフトウェアが組み込まれている。Skyは、それらの組み込まれて使われるソフトウェアと、一般企業や医療機関、学校向けのパッケージソフトを開発している。高校生のほとんどが、スマホを所有し、意識せずにインターネットで世界中がつながってしまっている一方で、安全性も問題視されている。SNSや通販サイトのように個人情報を登録することになるサイトを利用することも現在の、自分の情報は、もちろん、会社や学校などでも守らなければならない情報は少なくない。そのために企業や組織が利用する情報セキュリティ対策を支援するソフトウェアの開発を行っている。

今年10月にはマイナンバーの個人への通知が始まり、来年1月からは利用が開始される。世界の様々な国で採用されている番号制度だが、「高校生はマイナンバーを使うことがあるのか?」と問いかける。「アルバイトをするときに使う」という答えに高校生たちも納得。マイナンバーの実際の使い方、マイナンバーの情報が漏れたら、なぜ危険かを説明した。

世の中をより便利に、より安全にコンピューターが使えるようにするためのソフトウェア開発は社会貢献につながる。最後に、「頑張ってもどうにもならないこともあるのも事実だが、過去の失敗や悔しい経験が、仕事や将来をより良いものにしたという原動力になる。そして、運は頑張っている人に来やすい」と皆にエールを送った。

講師 金井 孝三 氏

Sky  
ICT事業本部 副本部長  
チーフソフトウェアアーキテクト



## A コース 第2時限 クラリオン

不安な自分を受け入れろ!



「不安がある人、手を挙げて」という質問から、授業は始まった。机上には目時さんの連絡先が書かれた名刺大のカード。裏には「不安なこと」を書く欄があり、高校生たちはまずそこへ、現在自分が抱える不安について書き込んでいった。

目時さんが、カーステレオやカーナビ、安全運転支援システムの開発などを行うクラリオンに入社することができたのは、大学院在学中、就職活動がうまくいかず不安でいっぱいだった目時さんに教授が差し出した一枚の名刺がきっかけだったという。

現在は、製品を組み立てる効率的な方法と高品質を実現する生産ラインをつくる「生産技術」という仕事に携わっている。仕事をしていると、いつも新しい課題が課せられる。これまでも、プロジェクトのリーダーとなったり、他社へ出向したり、海外での工場立ち上げなどをしてきた。新しい仕事に携わるときは、今でも不安を感じることもある、と目時さん。

そんなときは、自分を客観視し、現在地を確認したうえで、現状を受け入れることから始めるのだという。「ありがたい自分-客観視した現在の自分=今の自分に足りないもの」を書き出してみる。これが分かれば、あとは実践で足りないものを足していくだけだ。「不安な自分を受け入れることからしか、新しい世界は開けない。不安は、新しい世界への扉の前に立った証拠」と高校生たちにメッセージを送った。

授業のあと、名刺カードの裏に、「ありがたい自分」「今の自分」「足りないもの」を書き込み始めた高校生たち。この一枚が新しい扉を開く鍵となるに違いない。

講師 目時 一政 氏

Clarion  
生産技術本部  
生産技術部 量産技術グループ  
マネージャー



## A コース 第1時限 エコスタイル

電気の未来



太陽光発電など、再生可能エネルギー関連の事業を行うエコスタイルの中島さんは冒頭、「電気は見えないものなので、イメージを膨らませながら聞いてください」と語りかけた。

生活に身近な電気だが、改めて特性を問われると正確に答えられる人はいなかった。「電気は使いやすく加工された2次エネルギーで、ためておくことができない瞬間消費性をもつもの」と中島さん。授業では発送電分離、総括原価方式、同時同量の義務など電力ビジネスに関わる用語が、次々飛び出す専門的な内容だったが、高校生たちは皆、真剣に聞き入っていた。

後半に語られたのは、中島さんの半生。大学卒業後、外資系証券会社で法人営業を経験し、その後、ファンドマネージャーとして働くも、リーマン・ショックを機に廃業。就職活動を経て電力業界への転身を果たしたという。全く畑違いの業界でゼロからのスタートかと覚悟したが「これまでの経験がすべて今に生きていることに気づいた」と話す。

「その時々で一番好きなことを一生懸命やってください。人生はその繰り返し。その瞬間に大成しなくても、必ず未来につながっていきます」とのメッセージが送られた。

また、2016年4月に電力の完全自由化が始まるタイミングで電力業界に籍を置いていることに喜びを感じていると中島さん。「電力の自給自足にチャレンジしたい。再生可能エネルギーの導入で地域経済が活性化すれば、資源の奪い合いがなくなり、紛争そのものをなくせるのではないかと大きな夢も語られた。

講師 中島 健吾 氏

エコスタイル  
取締役 電力事業部部長

